

社会教育委員ニューズレター 第5号

発行 佐賀県社会教育委員連絡協議会
事務局 佐賀県県民環境部まなび課内

全国社会教育委員連合総会

5月18日東京で開催された。

○大橋会長挨拶

I・Tの時代、学びの機会が多彩に用意されている。社会教育は、地域づくりについて見落している。いか。限界集落、消滅自治体…全員参加であればできるものは多い。いつまでも講師を呼んで研修会をする時代ではない。

地域づくりには社会教育は、どう関わられるか。

社会教育委員の新たな発想で自主的なプログラムを考えて行くべきだ。社会教育委員の自立化なくして、社会教育の自立化はない。
※大橋謙策氏が会長を退任され、鈴木眞理氏(神奈川県)が新会長として選任された。

○鈴木新会長挨拶

社会教育委員は、しがらみにこだわらず、様々なことをやる以外にない。

県社教委連役員会

5月23日、県庁で開催した。

昨年度実践研修会は、例年以上に参加者があり良かったが、会場が階段式であったため、今年度は一考する必要がある。

社会教育委員が教育振興基本計画や社会教育計画策定に関わった市町は、社会教育予算の確保に結びついているという栃木県の調査結果があるようだ。事務局で入手できないか。

↓ 平成28年度事務局担当者会議における栃木県生涯学習課井上課長補佐が発表した資料である。社会教育委員の活躍は社会教育主事の状況と密接に関係している。という内容であったようだ。

今回、全国社会教育委員連合表彰に4名の社会教育委員の推薦があった。本県からは、1名しか推薦できないのであれば、委員とし

てのこれまでの活動への慰労と今後さらに頑張ってもらいたいという激励の意味からも、県社教委連で表彰する方策を検討してほしい。

↓ 今年度の総会で承認されたので、来年度から表彰を行う。

年間2回発行しているニューズレターに、県内市町社会教育委員や委員の会議の活動状況を他市町の委員に周知してもらうためにも、毎号4市町程度掲載できないか。平成31年度九州ブロック研究会に向けた意欲喚起にもなるのではないか。

↓ 執筆順番表を作成して、各市町、半ページ〜1ページ程度でお願いしたい旨を総会で提案していく。そのためニューズレターを2ページ増やして6ページとする。

平成31年度九州ブロック社会教育研究大会と九州地区公民館研究大会を合同開催することで、両団体にとっても意義ある大会にしなければならぬ。

公民館研究大会では、学校のことが話しにくい。半面、社会教育研究大会では、地方創生の話は出にくい。

早めに準備に取り掛かる必要があるのではないか。

↓ 公民館と合同大会を開催している東北ブロック大会(宮城県仙台市)や熊本県社会教育・公民館合同研究大会を、県公連と合同で視察するなどして情報を収集し、準備会の立ち上げを進めていきたい。

平成29年度全国社会教育委員連合表彰者

久保山 正和氏 (基山町)

【推薦理由】

佐賀県社会教育委員基礎研究会や実践研修会では、毎回積極的に発言するとともに、グループワークではファシリテーター役を率先して引き受け、参加者の発言を積極的に引き出すなど議論の活性化に尽力した。

社教委連理事としても、県全体の社会教育委員活動の振興に努めるとともに、平成22年度九州ブロック社会教育研究大会佐賀大会では、実行委員として大会の成功に向けて尽力した。

また、平成16年から基山町社会

教育委員として、町の体育・文化を含む社会教育行政の推進に貴重な提案をした。

県社教委連総会・研修会

5月30日、県内市町社会教育委員や事務局員等、約80名の参加を得て、平成29年度の総会・研修会を神埼市中央公民館で開催した。

○上野会長挨拶

栃木県教育委員会の調査によると、社会教育主事が発令されている市町村ほど社会教育計画が策定され、そのことが予算化につながっている。



久保山議長の進行による総会

○総会
参加した社会教育委員から「社

会教育委員の会議の招集権は、教育長にしかない。社会教育の必要性は高まっている中、教育長がもっと社会教育を振興しようという想いを持たないと社会教育委員の活動は進まない。形骸化してしまおう。社教委連として教育長に対して、社会教育委員の会議回数を増やすように、教育委員会は社会教育委員の声を聴く機会を設けるように、というような活動をして、社会教育委員の必要性を訴えるべきではないか。」という意見があった。



↓ 社会教育委員の会議の招集権は、教育長にあるが、社会教育委員3名以上の請求があれば、会議を招集することができる市町も県内の半数ある。会議回数を増やしたり、教育委員との意見交換をする機会を設けることなどは、各市町単位で要望すれば実現可能なのではないか。

社教委連は、社会教育委員がその職務を達成するために必要な連絡、協議、研修、調査研究等を行う目的で結成されている。

社教委連では、今後とも社会教育委員や会議の活性化に必要な情報を提供していく。嬉野市社会教育委員から、「嬉野市では、社会教育委員と教育委員との意見交換を行っている。コミュニティスクールなど学校教育との関わり等の話ができた。教育長も社会教育に関心を持っている。」という意見も出た。

31年度	30年度	29年度	
鹿島市、嬉野市、吉野ヶ里町、大町町	佐賀市、鳥栖市、有田町、上峰町	多久市、唐津市、みやき町、白石町	前期
	伊万里市、神埼市、江北町、太良町	武雄市、小城市、基山町、玄海町	後期

市町ニューズレター執筆計画

本会が発行しているニューズレターは、県ホームページにも掲載しており、会議や委員の研修資料としても一層活用してほしい。新たに、ニューズレターに、各市町の社会教育委員の取組事例等を紹介する執筆計画を提案。上野会長からも、各市町で記載できる範囲で構わない旨の説明もあり、承認された。

平成31年度開催予定の九州ブロック社会教育研究大会佐賀大会は、全国公民館研究会・九州地区公民館研究大会佐賀大会と合同開催する議案等が承認された。

○基礎研修会

テーマ…地方創生の時代における社会教育委員の役割
講師…上野景三社教委連会長

人間の成長・発達は、学校教育だけでは完結せず、人間の生涯にわたる時間軸で考える必要がある。全国・九州から見た佐賀県の人口割合、県内市町の人口割推移から見た今後の地域の動きの話があった。また、子どもを取り巻く学校・地域・家庭の関係は同じではなく学校機能が肥大している。さ

らには、子どもに関わる情報社会のメリット・デメリットの話があった。社会教育委員は、この関係性の全体が見えてくる。

新任の社会教育委員は、地域社会をより良くするために、地域を知り、お互いを知ることから始めてもらいたい。

研修会の最後に、上野会長から、私案として

① 社会教育委員と教育長・教育委員との意見交換会の開催を提案してほしい。

社会教育委員の職務には、教育委員会からの諮問に応じた答申作成があるが、県内の市町教育委員会では、社会教育委員の会議への諮問は少ない。

教育委員と意見交換をしたり、社会教育委員の会議で家庭教育や地域学校協働本部の推進など、今年度のテーマを立てて調査研究を重ね、教育委員会に意見具申をしたらどうか。

② 教育振興基本計画大綱・社会教育計画策定・充実に関わってほしい。

社会教育計画は、教育計画の下位の計画に位置づけられ、社会教

育・生涯学習の振興にとってとても大切な計画である。

社会教育関係の予算や人件費の関係で自前の調査ができなければ、住民満足度調査や男女共同参画意識調査、地域福祉に関する調査など他の部局の調査で関連する項目を参考にすることはできる。「調査なくして計画なし。」である。

③ 社会教育主事の配置を求めていこう。

社会教育法では「専門的技術的な助言・指導」を行う社会教育主事は必置となっているが、県内の社会教育主事の発令は、まだ不十分である。社会教育委員から設置に向けて声を上げてほしい。という3つの提案があった。



基礎研修会で講義する上野会長

今秋の「社会教育委員実践研修会」では、今回の研修を受けて、参加者で少人数によるワークショップ形式で議論をする。

※社会教育委員実践研修会

期日：11月28日(火) 13:30～
会場：久保田農村環境改善センター
(佐賀市久保田町)

今回は、昨年度の会場づくりについての参加者からの意見を活かして、フラットな会場で開催する。

参加費(資料代)：500円
テーマ：現時点では、未定。

県内市町社会教育委員及び会議の活動に関する調査を基に県社教委連第2回役員会で、協議・決定する。

九州ブロック社会教育研究大会宮崎大会

期日：11月9日(木)～10日(金)
会場：宮崎市

主題：人と人をつむぐ社会教育の創造く地域住民主体によるネットワークづくり

佐賀県は、第3分科会「地域における学校との協働体制づくり」で小野原保子さん(伊万里市社会教育委員)が「サマースクールに見る地域の教育力」と題して事例発表する。

子育て支援の一つとして、子どもたちにとっても、保護者にとっても夏休みの居場所づくりであるサマースクールの取組みの内容と成果・課題について発表する。

地域と学校との連携は今後、不可欠となってくる。そのためにも、地域とのパイプ役として、社会教育委員として何ができるか考え、できることから行動に結びつけていきたいとの思いがうまく伝わればと小野原さんは語った。助言は上野会長が行う。

近頃の研修会情報

県外で行われている研修会・研究大会等のうち、佐賀県社会教育委員等の社会教育関係者の参加も可能なものを紹介します。

○長崎県社会教育研究大会
期日：8月29日(火)～30日(水)

会場：長崎ブリックホール
テーマ：今、改めて考える社会教育の役割と可能性

日程：

8月29日(火)

13:30～16:30 分科会

8月30日(水)

10:20～11:50 講演

「小学校の空き教室を活用した地域交流スペースから広がるスクール・コミュニティ」

～島根県益田市豊川小学校の取り組み～

○福岡県社会教育研究大会

期日：9月7日(木)

会場：福岡県立社会教育総合センター

日程：

講演「地域学校協働活動と今後の

社会教育の方向性について」

パネルディスカッション

『地域と学校の連携・協働』

について

全国社会教育委員連合から

書籍の紹介

「改訂版 社会教育委員のため

のQ&A（関係法規から読み解く）を、8月末までに申し込まれると、特別価格1,000円（税込）で購入できます。

社会教育と生涯学習の違い、社会教育委員の職務、社会教育行政や社会教育関係団体との関係を社会教育法等から読み解いた書籍です。是非お手元に。

各市町の担当課に申込書があります。

【シリーズ】我が市町の社会教育委員活動（I）

白石町社会教育委員会

社会教育委員長 川崎 富雄

白石町社会教育委員会は、男性4名、女性4名の計8名で構成されており、年齢は、50代から60代が中心となっています。

会議は、年3回開催され、生涯学習課から提案された議案に対し、委員から活発な意見が出されます。

通学合宿の発案

委員が発案した小学4～6年生を対象とする「通学合宿」も本年

で6年目を迎え、教育委員会の事業として定着してきました。また、委員も積極的に参加し、子ども達との交流を図っています。



「通学合宿」での食事風景

おおどぼう倶楽部への協力

生涯学習課が実施している「おおどぼう倶楽部」（体験学習・小学4～6年生対象）では、講師を務めるなど、積極的に生涯学習事業に協力しています。

おおどぼう倶楽部事業の中の一つの活動である干潟体験では、子ども達に干潟で生息している生き物についての説明を行うなど、体験だけではなく知識を養う活動もしています。



干潟の生き物について説明

今後、社会教育委員として、積極的に町の社会教育・生涯学習の推進に努め、町の基本理念である「人と大地がうるおい輝く豊穡のまち」を目指して邁進していきます。

社会教育委員活動として求めるもの

多久市社会教育委員長 野田勝人
多久市教育振興課 社会教育係

多久市の現状

昭和の大合併（昭和29年）で1町4村が合併し、多久市としてスタートしました。当時は、子どもや青少年も多く、街には賑わいも見られたが、石炭産業の衰退に伴

い人口は減り始め、現在は2万人を切るまで減少しました。

市民の数が減少していく状況において、待ちの姿勢や前例踏襲のやり方では社会教育のその先に見えるのは『衰退』の2文字です。

活発な市民活動が見られる、市外から訪れる人が多い、商店街に賑わいがある、企業活動が盛ん、子どもたちが活き活きと通学する、高齢者が元気に活動している、女性の活躍が目に見える、等々の地域では、それぞれ誰かの弛まぬ努力と前向きな気持ちで『活性化』を実現しているのではないでしょう。

今の多久市にこそ、その努力が求められています。その力を発揮するために必要となる共通の基盤的要素として、社会教育環境の充実があると考えます。教育の充実のないところに地域の発展はありません。また、教育は学校だけが担うものではなく、家庭も地域でも必要で、子どもの頃だけが教育が必要な時期ではありません。世代を通じて途切れることのない教育の機会が確保されていないのはなりません。青々と勢いよく育

つ植物には、たくましい幹と深く広がる根があります。その根は豊かな土壌に根付くものです。豊かな土壌には、いろんな個性の植物が育ちます。きれいな花を咲かせるもの、甘い実をつけるもの、菓の原料となるものもあります。豊かな土壌であれば、うまく種がまかれれば芽は出てくる。社会教育の環境はまさにその豊かな土壌と同じではないでしょうか。種を蒔き育てようとする人達の取り組みを、豊かな土壌づくりという後押しで支援していくことが、社会教育の環境を整える立場にある者の務めです。

何の改良も施されない土壌に、いくら花や実のなる種をまいて期待を膨らませても、見合う収穫は得られない。

社会教育委員・会議の近況

市の社会教育委員の活動を振り返ると、限られた回数 of 行政主導の会議で、予算決算の説明や資料の提供が一方的な感じでなされ、必然的に提案を承認する。まさに、昨年度社会教育委員実践研修会での意見・課題のとおりでした。これでは社会教育委員それぞれ

れがもつ知見を十分に活かした活動をしているとはとても言えないのではないかと。社会教育委員としてその役割を果たすことのできる場面が他にもあるのではないかと。

多久市の社会教育の土壌をより豊かにするための社会教育委員の会はどうあればいいのか。この視点に立った検証と検討が必要だとの認識を今年度新たにし、スタートを切りました。いままではこのやり方だった、したことがない、では前に進まないと感じています。

多久市には、社会教育の一翼を担う活動を行う団体や法人が複数あり、それぞれ個性的な活動で頑張っています。社会教育委員として、これら団体等の活動を積極的に支援しつつ、新たな芽が息吹くよう豊かな土壌づくりに励みたいと考えています。

唐津市社会教育委員会開催

唐津市 生涯学習文化財課

平成29年7月11日、第1回社会教育委員会を開催しました。

今年度は、12名中5名が新任委員となり、委員及び事務局自己紹介後、甲斐委員長の進行のもと和やかな雰囲気の中にも活発な意見交換・協議がなされました。

委員となり、委員及び事務局自己紹介後、甲斐委員長の進行のもと和やかな雰囲気の中にも活発な意見交換・協議がなされました。



委員長・副委員長による和やかな進行

今回は、昨年度開催時にいただいた課題を引き継ぎ、協議しました。

青少年体験学習
(たくましいからつつ子育て成事業)

【課題】

- ・各市民センター単位で実施しており、市全体の取り組みとなっていない。
- ・継続事業は多いが、ニーズに合っているのか。

【結果】

- ・市全体を対象とした事業を計画

- ・「たくましい」次世代のリーダー育成につなげる。
- ・体験型の活動内容は、心身の成長には有益である。

社会教育関係団体

【課題】

- ・活動の活性化につながるような支援体制が必要である。
- ・地域活動はするが、団体（役員）としての活動には加わらないグループが増えている。

【結果】

- ・団体の相談窓口等が必要である。
- ・若い世代との交流の場を設ける。
- ・リーダー育成の仕組みづくりをする。

今後の公民館のあり方

【課題】

- ・公民館により業務内容が違う。
- ・ホームページの充実が必要である。

【結果】

- ・人的支援が必要である。
- ・大切な課題であり、大きな課題であるので今後も検討、協議していく。

※ 次回は、新年度予算に対応す

るため、10月開催を目指していきます。

みやき町の社会教育委員活動
みやき町社会教育委員長 塘 弘喜

わが町みやき町

みやき町は平成17年3月の平成の大合併で三養基郡旧3町の中原町・北茂安町・三根町が合併し発足しましたが、平成27年には2万5千人余りへと2千人減少しました。

町では人口減少対策の一つとして、平成24年度から定住総合対策事業に取り組み、未来へのかけがえのない希望である子どもたちが健やかに成長できる町づくり、「子育て支援のまち宣言」を行っています。また、青少年育成町民会議では、青少年の自主性・社会性の伸長と自立の促進、青少年育成に対する親・大人・社会の意識啓発の促進、青少年指導者・育成者の養成促進等に取組んでおり、学齢前の子どもたちの子育て支援は非常に盛んになってきました。

また、社会教育分野でも青少年健全育成指導員・青少年サポート

隊・放課後子ども教室・子どもクラブ連絡協議会・少年スポーツクラブ振興会・ボランティア連絡協議会・NPO法人や地域の協力を得て、活発な活動を行っています。家庭教育には、何かしらのテコ入れが必要と感じていました。

みやき町の社会教育委員

小・中学校の校長、公民館館長、婦人会、体育協会、文化連盟、区長会、子どもクラブ連絡協議会など、9名で構成されています。

新たな取組

町の社会教育は、公民館と協働で様々な事業を行っています。いずれも一過性のものとなり、町民の印象にはあまり残らないのが実情であると感じていました。

そこで、社会教育委員会の会議を年1回から年2回に改め、会議では従来の議題に加え『地域の子育て 10か条』の策定をすることとしました。

今後は、町民に周知し、継続的に実践し、半永久的な町民運動として、全町民のモチベーションを高く保持できるよう願っています。



地域の子育て10か条

次回「シリーズ」我が市町の社会教育委員活動」予告

次回（平成30年1月頃）の執筆担当市町は、武雄市・小城市・基山町・玄海町となっています。

本年12月中旬をめどに、原稿の執筆をお願いします。

各市町の特色ある社会教育委員活動や委員の会議での協議内容、委員の社会教育委員活動に対する思いなど、内容はお任せします。

※ 県まなび課のホームページに、ニューズレター（第1号〜第5号）を掲載しています。（「佐賀県まなび課」で検索。研修資料等に御活用ください。